10月29日　きょろちゃんずGP議事録

久保、中島、丸山、村木、小川

ちーちゃん

政策方針として、世界大学ランキングに10大学をランクインさせることが目標とされた。

P.P.→実際にいろんなランキングをみて、日本の大学は必ずしも国際的な評価が高くないことを示す。

↓

日本の現状の政策

•国公立大学を通じた支援（大学院、質保障、地域活性化）

•大学のグローバル化

①スーパーグローバル　タイプA：トップ10目指す　タイプB：ICUなどを支援

②★大学の世界展開力強化事業　28億円（H25）

•質保障を伴った日本人の海外留学と外国人学生の受け入れを推進

•事業開始（H23）からH24年度末まで

日本人派遣　1307名（目標709名）

外国人受け入れ　814名（目標　691名）

•H26〜ロシア、インドとの大学間交流事業開始

③★大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）　23億円（H25）

H22末時点　受け入れ　目標22千人　到達26千人

•英語による授業で学位取得

•質の高い外国人学生の受け入れ

•優秀な外国人教員の採用

•交換留学

⇒受け入れ、外国人教員増加は順調

•医療

↓

いっぱいやられているけど、シンガポールとかのほうが（留学生政策とかの面で）結果出している。（→ランキングだけじゃなくて先行研究の意見もほしい）

R.Q.　これはなぜか？

この後の流れとしては…

1. シンガポールとかのほうが留学生に特化しているのでは？
2. 外国人教員の受け入れはされている？
3. 日本はヨーロッパ型＋アメリカ型で第三の道を進んでいるから評価しにくいのでは？

※なんで新興国が成功しているのに日本ができないのか？という前提のもとの話

小川

P.P.　グローバル化に伴う動きの中で、留学生があんまり来ない。

先行研究：制度に問題あり？→それでも成功している国はある

じゃあなぜか？：院が学部に付随するものとして捉えられているからでは？

たとえば、日本から出て行く人の目的は：MBA取得、語学

じゃあ、日本に来るメリットは？

ちかちゅう

PP 日本人の海外留学者の数は、国際的に見て少ない＆減少傾向にある。

⇒大学の体制の問題として、①帰国後の単位認定が困難、②助言教職員の不足、③大学全体としてのバックアップ体制が不備、④先方の受入大学の情報が少ない、などが挙げられている。

※確かに人口減少はしているけれども、大学入学者数は横ばい傾向＝留学者数の減少の原因が少子化とは言えない？

背景

◆グローバル化

日本人の英語力が低いことも問題になっており、グローバル人材が求められている。

⇒日本の留学生政策の問題を探ってみよう！

先行研究日本の留学生政策の問題

**◆太田浩「大学国際化の動向及び日本の現状と課題：東アジアとの比較から」『メディア教育研究』8巻1号、S1-S12。**

・単位互換制度の未整備（交換留学の歴史が浅い＠国立大学）

・制度があっても単位認定の審査に柔軟性がない、評価基準や授業時間数が異なるなどの問題あり。⇒認定単位数が少ないということは、４年間で卒業できないことになる。

・東アジア諸国と比べて、受入れに特化し、日本の学生の送り出しにあまり力入れていない

・東京大学の2011年5月における外国人留学整数は2966人だが、海外留学者数は339人にすぎなかった（濱田純一『「秋入学」は生き残りへの賭け』文藝春秋　11、2011年、206-213頁）。

・私立大学では海外留学の先駆的な事例が増えているが、それに対する政府の支援は限定的。

・「世界的な潮流となっている複数・共同学位プログラムは、就業年限やカリキュラムのボリュームから一般的には修士課程が適していると言われており、それを考慮すると大学院のキャパシティが大きい国立大学での開発が望まれるが、その取り組みは遅々として進んでいない。ただし、これについては、日本の大学が海外の大学と共同で学位を授与することを政府が未だ認めていない、という法整備の遅れも影響している（複数学位は合法）。」

⇒日本の大学が外国の大学と連携し協働で学生を教育するような仕組みを政策的に支援することが肝要であろう。そのためには、国境を跨ぐ共同学位プログラムを可能とする法整備を急ぐ必要がある。（2011年に始まった文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」：政策的支援）

BUT政策的な支援が解決策になるという根拠は述べられていない。そもそも「なぜ政策が受け入れに偏っているか」については言及されていない。（アジアとの比較？？？）

**◆高良要多「グローバル時代における我が国の大学の展望－日本・米国・欧州の留学生政策の比較－」**

・日本は留学生の受入れのみに政策が偏っている。（予算配分など）

⇒あらゆる分野で国際的視野を持ち、グローバルな技術を持った人材が必要となる。そのような人材を育成するために、我が国は、日本人学生の海外留学促進のためにも政策を策定し、十分な予算を配分するべきである。

この後の流れの案

①アジアとの海外比較を行い、日本人の海外留学生を増やすための政策の問題を見つける

②そもそもなぜ日本の政策は「受入」に偏っているのか、その要因を探る

むらしほ、ゆづ

P.P. 大学の国際競争力（要、定義）が低い

エビデンス：ランキング、文言、先行研究

何で低いのか？それに対して対策はしていないのか？

→★★★という対策をしている

BUTなんかうまくいっていない。なぜか？

仮説　　　→非英語圏と比較して考える

案

■ちーちゃんの案で、仮説検証を留学生政策にするのは？

■大学ランキングを使うなら、それを補強するいろんな要素（ノーベル賞、留学生の数とか）で補強すればなんとかなりそう

■グローバルって言っても、完全に海外行かれたら困る

軸足を日本にとどめながらグローバルな人材の育成

•日本

•軸足を自国に置きながらグローバル人材育成している国

•日本と同じ様に留学生の数が少なくて困っている国

•海外に留学する人は多いのだけど軸足を自国に置けてない国

の４カ国比較はどう？（流出メイン）

■ちーちゃんが留学生政策につなげるなら、新興国との比較を前提にする

■３大　教育改革の流れ　文科の資料

■ネットワークづくりのところに（グローバル30に）着目するのはどう？

■大学改革の現状：グローバル化、ユニバーサル化、市場化

その背景は、国際的な動向によるもの⇒国際化の流れ

日本の大学の国際的な立ち位置をあげていかなければ！

政府：世界大学ランキングをみている　だから、国は主に留学生政策と質保障に力を入れているようだ。実際の評価基準としては、研究論文の被引用数（被引用数の増加への取り組み：外国人教員の呼び込み）と教員による評判調査と学生対教員比率が主。留学生は５％とか2.5％とか少ない。

ちーちゃんが考えるP.P.　今、留学生政策とかに偏っている。他に、どんなことしたら国際的な評価が上がるのか？

（国際的な評価が低いことじゃなくて）国際的な評価をすることが必要とされていること（国内の文脈でばっかり語られている）単位互換があんまり進んでない現状　　単位互換がなくても留学生が来てくれればそれでいい。他の国もできていないなら別にP.P.ではないのでは？

■大学ランキング関連

1. Times　世界トップ200大学
2. 上海交通大学　世界大学学術ランキング
3. NEWS WEEK　トップ100グローバル大学

■むらしほ案

PP 日本人の海外留学者の数は、国際的に見て少ない

⇒大学の体制の問題として、①帰国後の単位認定が困難、②助言教職員の不足、③大学全体としてのバックアップ体制が不備、④先方の受入大学の情報が少ない、などが挙げられている。

就活とか経済的なところはこれから検討されていく事項。だけど単位互換とかはやっていないのどうなの？

留学生多いのは世界とか関係なく日本単体で見ても重要なこと。

⇒こっから、大学の体制の話に繋げていけば？（ちかちゅうの案を基本にしていく）

■2013　図表で見る教育

海外に留学している率　日本、メキシコ１％　OECD加盟国２％　アイスランド18.9％

■ちーちゃんのひっかかりポイント

留学生送り出しでいくんだったら、高等教育に持って行くのは難しいのでは？

宿題

むらしほ：ちかちゅうの案を軸にして論をつくってくる

ちーちゃん：カリキュラムの国際化について調べてくる（論の違和感について考える）

ちかちゅう、ゆづ、小川：アメリカ（ゆづ）、ヨーロッパ（小川）（フランスとドイツ）、アジア（シンガポールとか）、オーストラリア（ちかちゅう）の高等教育における留学生政策について（送り出し中心で調べて、受け入れは書いてたらメモる程度に）